

福岡県筑後広域生活圏

土地分類基本調査

太 宰 府

5 万 分 の 1

國 土 調 査

福 岡 県

1983

序 文

国土を有効に利用し、開発し、保全することは限られた土地資源下にある我が国においては、重要な課題となっております。

このため、国土調査法による都道府県土地分類基本調査は地形、表層地質、土壌等の自然的土地条件を科学的、総合的に調査し地域の特性に応じた土地利用開発計画等の基礎資料として寄与するものであります。

本県においては、すでに周防灘周辺開発地域土地分類調査として、昭和45年度「行橋・葦島・中津」図幅、昭和46年度「小倉・後藤寺(田川)」図幅、昭和47年度「折尾・直方」図幅の調査を完了しております。

さて、今回の図幅は、昭和54年度「甘木」、昭和55年度「久留米」図幅に続き、福岡・筑豊広域生活圏の「太宰府」図幅を調査したものであり、ここに成果をとりまとめましたので、御利用いただければ幸甚に存じます。

資料収集、調査、図簿の作成に当っては、国土庁国土調査課をはじめ関係各位の御指導御協力に対し感謝申し上げます。

昭和58年3月

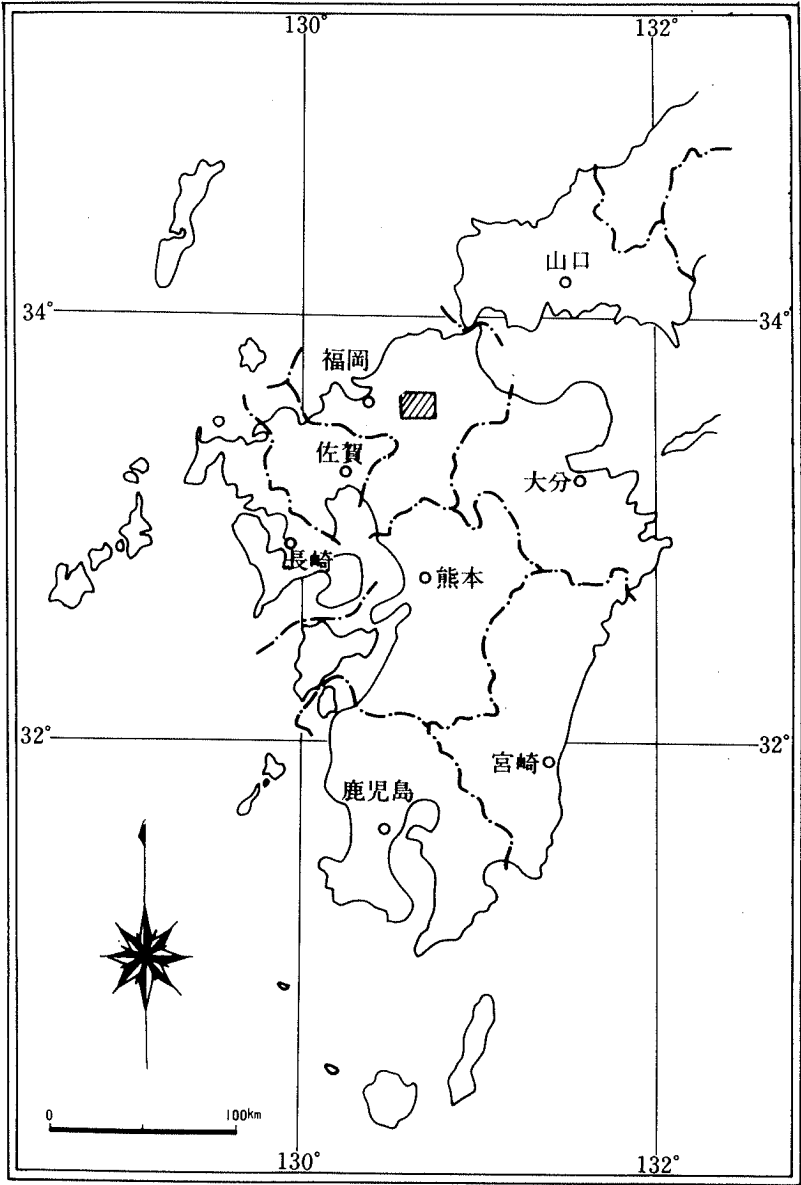
福岡県農政部長 赤保谷 明 正

ま え が き

1. 本調査は、土地分類調査関係の各作業規程準則（総理府令）に基づいて作成した「福岡県土地分類基本調査作業規程」により実施し成果としてとりまとめたものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第4号の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣の刊行した5万分の1の地形図を使用したものです。
4. 調査の実施担当者は下記のとおりです。

総 括	福岡県農政部	農地計画課
地形分類調査	九州大学農学部教授	竹下敬司
表層地質調査	九州大学理学部	山口勝
	〃	富田幸臣
	〃	下山正一
	〃	野井英明
	北九州大学文学部	亀山徳彦
土 壌	福岡県農業総合試験場	
	化学部長	松井正徳
	参 与	土山健次郎
	福岡県林業試験場	
	研究員	高木潤治
	技 師	佐々木重行
協力機関	福岡県関係各課及び関係地方機関並びに関係市町村	

位 置 図



目 次

総 論

I	位置および行政区画	1
II	人 口	3
III	気 候	6
IV	交 通	9
V	主要産業の概要	11
VI	開発の現状と構想	23

各 論

I	地 形 分 類	25
II	表 層 地 質	34
III	土 壤	42
IV	傾 斜 区 分	52
V	水系・谷密度	54
VI	土地 利用 現 況	56

総論

I 位置および行政区画

1. 位置

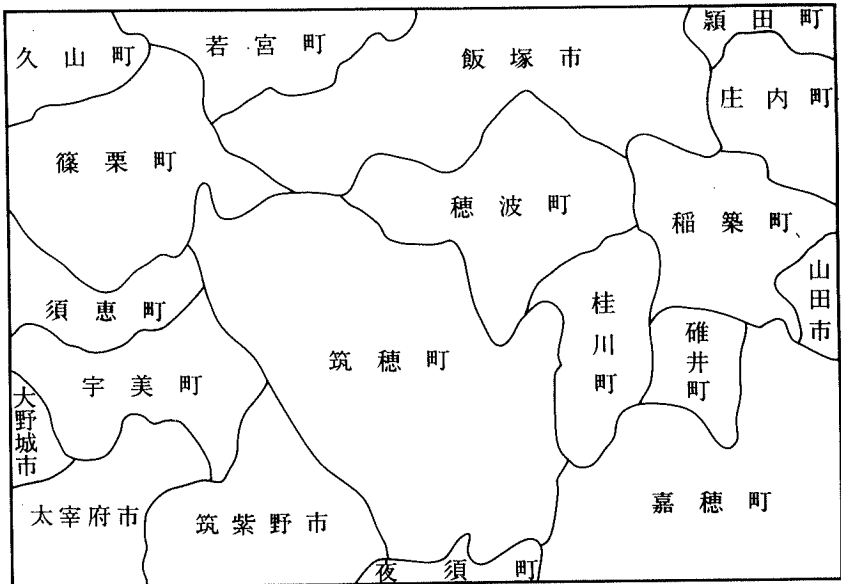
「大宰府」図幅は福岡県中央部に位置し、東経 $130^{\circ}30'$ から $130^{\circ}45'$ 、北緯 $33^{\circ}30'$ から $33^{\circ}40'$ までの範囲を占め、図幅内の面積は 429Km^2 である。

2. 行政区画

図幅内の行政区画は第1図のとおりで飯塚市、山田市、筑紫野市、大野城市、太宰府市、宇美町、篠栗町、須恵町、久山町、若宮町、桂川町、稲築町、碓井町、嘉穂町、筑穂町、穂波町、庄内町、穎田町、夜須町の5市14町からなっている。

また、本図幅内に占めるこれらの市町村の面積及び占有率は第1表のとおりである。

第1図 行政区画図



第 1 表 図幅内市町村面積

区分 市町村名		図幅内面積		市町村全面積 B (Km ²)	A / B (%)
		実数 A (Km ²)	構成 (%)		
飯塚市		60	14.0	72	9.4
山田市		1	0.2	22	2.9
筑紫野市		24	5.6	88	11.4
大野城市		3	0.7	27	3.5
太宰府市		23	5.4	29	3.8
粕屋郡	字美町	29	6.8	31	4.0
	篠栗町	37	8.6	39	5.1
	須恵町	15	3.5	16	2.1
	久山町	17	3.9	38	4.9
鞍手郡若宮町		12	2.8	87	11.3
嘉穂郡	桂川町	20	4.7	20	2.6
	稲築町	17	4.0	17	2.2
	碓井町	8	1.9	8	1.0
	嘉穂町	42	9.8	89	11.6
	筑穂町	74	17.2	74	9.6
	穂波町	25	5.8	25	3.2
	庄内町	17	3.9	26	3.4
	穎田町	3	0.7	17	2.2
朝倉郡夜須町		2	0.5	45	5.8
計		429	100	770	100

資料：建設省国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」

昭和54年10月1日による。

ただし、図幅内面積は福岡県農政部農地計画課調べ

Ⅱ 人 口

「太宰府」圏幅に関する市町村の人口動態は第2表のちおりで、福岡広域生活圏の歴史と観光の中心地である太宰府市付近に於いては急激に増加し、農山地を多くかかえた他の市町村でも増加の一途をたどっている。

なお、筑豊地方では石炭産業から脱皮した産炭地域振興施策又工業団地が建設されており、その他の地域でも宅地造成、工場建設等各種の開発事業の急速な進展にともない、一層の人口の増加が見込まれる。

第 2 表

人 口

市町村名			人 口	
			昭 和 5 0 年	昭 和 5 5 年
飯 塚 市		7 5, 4 2 6	8 0, 2 8 8	
山 田 市		1 4, 6 7 0	1 4, 8 5 6	
筑 紫 野 市		4 7, 7 4 1	5 7, 9 6 6	
大 野 城 市		5 2, 1 6 9	6 4, 1 0 9	
太 宰 府 市		3 6, 5 5 3	5 0, 2 7 3	
宇 美 町		1 9, 9 8 2	2 3, 9 6 6	
篠 栗 町		1 6, 9 3 0	1 9, 6 6 2	
須 恵 町		1 5, 8 4 9	1 8, 5 4 6	
久 山 町		7, 5 5 3	7, 6 5 7	
若 宮 町		1 0, 4 2 0	1 0, 4 2 7	
桂 川 町		1 1, 7 6 9	1 2, 7 8 0	
稻 築 町		2 1, 2 4 7	2 0, 9 8 5	
碓 井 町		6, 8 6 3	6, 8 1 1	
嘉 穂 町		1 2, 0 8 0	1 2, 0 5 1	
筑 穂 町		1 0, 7 0 6	1 0, 7 7 5	
穂 波 町		2 5, 9 1 3	2 7, 1 6 6	
庄 内 町		8, 6 9 2	9, 6 5 6	
穎 田 町		7, 3 2 1	7, 9 6 7	
夜 須 町		1 0, 3 9 6	1 1, 9 3 8	
	計	4 1 2, 2 8 0	4 6 7, 8 7 9	
福 岡 県 総 計		4, 2 9 2, 9 6 3	4, 5 5 3, 4 6 1	

資料：昭和55年「国勢調査報告」

動 態

昭和50年～55年 人口増減		面 積 (Km ²)	人 口 密 度 (1Km ² 当り)
実 数	率 (%)		
4,862	6.4	723.4	1,109.9
186	1.3	217.5	683.0
10,225	21.4	875.0	662.5
11,940	22.9	269.4	2,379.7
13,720	37.5	29.45	1,707.1
3,984	19.9	305.4	784.7
2,732	16.1	38.92	505.2
2,697	17.0	16.24	1,142.0
104	1.4	37.68	203.2
7	0.1	87.07	119.8
1,011	8.6	19.86	643.5
△ 262	△ 1.2	17.13	1,225.0
△ 52	△ 0.8	8.41	809.9
△ 29	△ 0.2	88.75	135.8
69	0.6	74.30	145.0
1,253	4.8	25.18	1,078.9
964	11.1	25.49	378.8
646	8.8	16.56	481.1
1,542	14.8	45.43	262.8
55,599	13.5	769.54	608.0
260,498	6.1	4,954.03	919.1

Ⅲ 気 候

本地域の気温、降水量は第3表のとおりで、内陸型の気候であり、年平均気温は15℃程度(月間平均最高19.5℃、最低10.7℃)で自然的条件に恵まれている。

降水量は、6月～8月に集中し全体の約50%に達し、夏比較的夕立が多く、山間地域を走る道路網については、冬期積雪のため交通障害を招くこともある。

第 3 - 3 表 月間平均気温

単位：℃ 1981年

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
飯 塚	2.6	4.8	9.0	13.6	17.6	22.5	27.7	26.3	21.6	16.3	10.3	6.6	14.9
太 宰 府	2.4	4.8	9.1	13.4	17.2	22.2	27.1	25.9	21.3	16.1	10.1	6.4	14.7

第 3 - 4 表 月 間 降 水

単位：mm 1981年

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
飯 塚	51	81	87	170	123	442	227	157	81	149	116	32	143
太 宰 府	37	73	52	150	132	473	268	162	104	135	98	下旬 (1)	153
篠 栗	37	48	40	下旬 (29)	110	484	307	166	78	183	118	48	147

備考：太宰府12月() } は下旬のみ記したもの。
 篠 栗 4月() }

第 3 - 1 表 月間平均最高気温

単位：℃ 1981年

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
飯塚	6.7	8.9	13.4	18.6	23.5	26.7	32.1	31.0	26.1	21.2	14.6	11.4	19.5
太宰府	6.0	8.7	13.4	18.2	22.5	25.9	31.2	30.4	25.9	20.8	14.2	10.9	19.0

第 3 - 2 表 月間平均最低気温

単位：℃ 1981年

月 観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
飯塚	-1.3	1.0	4.8	8.2	12.5	18.8	24.4	22.4	17.7	11.7	6.0	2.3	10.7
太宰府	-1.0	1.1	5.0	8.7	12.3	18.7	24.0	22.3	17.2	11.9	6.2	2.3	10.7

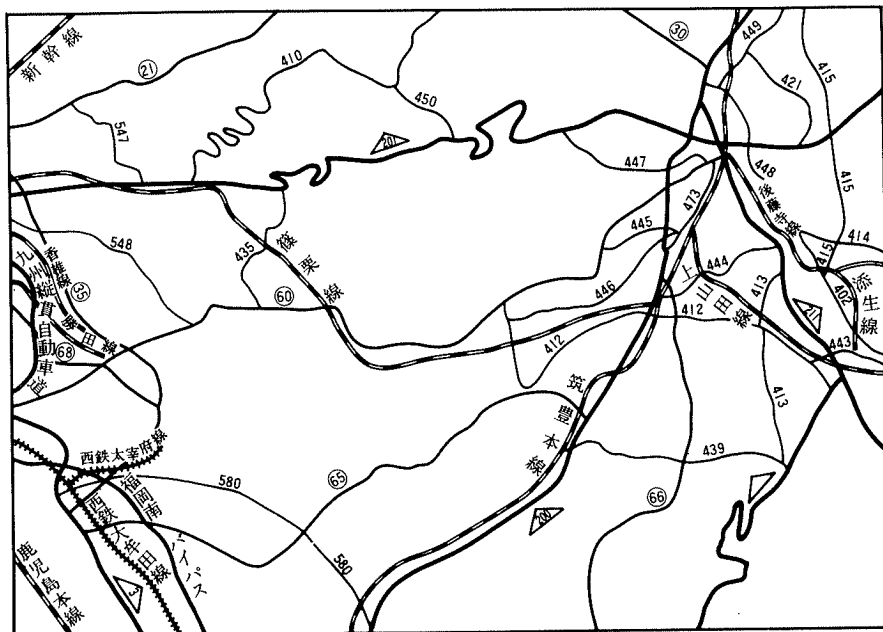
資料：福岡管区气象台

Ⅳ 交 通

本地域の交通体系は第2図のとおりであるが、図幅内では飯塚市を中心に福岡市、北九州市、行橋市、筑紫野市、日田市を結ぶ国道201号線、322号線、200号線、211号線の主要地方道を軸に一般県道及び市町道が縦横に交差しながら走っており、また、鉄道については筑豊本線、篠栗線、後藤寺線、上山田線、香椎線、勝田線、鹿児島本線、新幹線、私鉄として西鉄大牟田線、太宰府線が走っている。

なお、鹿児島本線吉塚駅(福岡市)を起点とし、筑前勝田駅(宇美町)を終点とする勝田線については第1次廃止対象路線に組み込まれている。

第2図 道路・鉄道現況図



凡例：九州縦貫自動車道 一般国道 主要地方道 一般県道

鉄道

- | | | | |
|-------|----------|----------|--------|
| A 新幹線 | B 鹿児島本線 | C 筑豊本線 | D 篠栗線 |
| E 香椎線 | F 勝田線 | G 上山田線 | H 後藤寺線 |
| I 漆生線 | J 西鉄大牟田線 | K 西鉄太宰府線 | |

一般国道

- 3号 北九州市-鹿児島市
- 200号 北九州市-筑紫野市
- 201号 福岡市-行橋市
- 211号 日田市-北九州市
- 322号 北九州市-久留米市

一般県道

- 21 福岡直方線
- 30 飯塚福岡線
- 35 筑紫野古賀線
- 60 飯塚大野線
- 65 筑紫野筑穂線
- 66 桂川下秋月線
- 68 福岡太宰府線

一般県道

- 402 飯塚山田線
- 410 鳴湊宗像線
- 412 高田嘉穂線
- 413 千手稻築線
- 414 鶴三猪田川線
- 415 口の原稻築線
- 421 鯨田(S)有井線
- 435 内住篠栗線
- 439 才田筑前内野(S)線
- 443 下山田碓井線
- 444 豆田稻築線
- 445 高田天道(S)線
- 446 大分太郎丸線
- 447 大日寺潤野飯塚線
- 448 幸袋柏森線
- 449 口の原川島線
- 450 八木山若宮線
- 473 瀬戸飯塚線
- 547 猪野篠栗線
- 548 佐谷上亀山停車場線
- 580 山家、関屋線

Ⅳ 主要産業の概要

1 農林業

本地域の耕地面積は16.5%で稲作主導農家が大半であるが、その基盤である農地の転用が急速に進み、その面積は年を追って減少の傾向にあり、近年は転作により、そ菜、花卉、養鶏などの普及もみられる。また将来の農業を目指すための土地基盤整備や農業構造改善事業により近代化が促進されている。

なお、48.8%を占める森林については天然林が多く、造林率が低率で林地としての利用は低く、丘陵部には牧場、ゴルフ場が存在し一部にはボタ山が見受けられる。

2 商工業

本地域の商工業は第7表のとおりである。

飯塚市は筑豊地区の経済の中心都市として商工業が盛んで、特に工業では従来から食料品製造業を中心として消費材工業で構成されていたが、福岡、北九州の近隣に位置し国道、その他の道路網の整備等から、最近では立地条件が好転し一般機械工業や電気機械器具工業等の都市型企画の進出がみられ業種構成が多様化している。

8 観光

本地域には太宰府を中心として周囲の三郡山、宝満山、大根地山、天拝山を結ぶ自然歩道コースがあり、それらの尾根からの展望は見晴らしがよく、眼下に博多の市街、博多湾、能古島、遠くの山々が手にとるように望めハイキングに絶好のコースである。

また、歴史的文化遺産を有する当地区は太宰府政庁跡を筆頭に観世音寺や戒壇院、宗福寺等の国、県指定文化財が数多く点在し、太宰府天満宮もその代表である。

飛 梅

東風ふかば にほいおこせよ梅の花

あるじなしとて 春なわすれそ

菅原道真公が京都を立つ時、庭前の梅に名残りを惜しんだ有名な歌で、この梅は公のあとを慕い太宰府へ飛んで来たと伝えられ、「飛梅」と称され毎年春をまたずして、他の梅にさきがけて蕾をやぶり、薫風は清香を放っています。

第5表

土地利

項目 市町村名	A 総面積	農用地 B			B/A
		田	畑(樹園地)含	計	
飯塚市	7,234	838	133	971	13.4
山田市	2,175	112	80	192	8.8
筑紫野市	8,750	1,230	117	1,347	15.4
大野城市	2,694	258	46	304	11.3
太宰府市	2,945	338	16	354	12.0
宇美町	3,054	196	36	232	7.6
篠栗町	3,892	333	63	396	10.2
須恵町	1,624	254	29	283	17.4
久山町	3,768	310	140	450	11.9
若宮町	8,707	1,160	282	1,442	16.5
桂川町	1,986	477	78	555	27.9
稲築町	1,713	325	71	396	23.1
碓井町	841	295	11	306	36.4
嘉穂町	8,875	1,220	196	1,416	16.0
筑穂町	7,430	806	188	994	13.4
穂波町	2,518	607	55	662	26.3
庄内町	2,549	319	72	391	15.3
穎田町	1,656	240	34	274	16.5
夜須町	4,543	1,580	180	1,760	38.7
計	76,954	10,898	1,827	12,725	16.5

資料：総面積は建設省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積」(昭和54年)
農用地は福岡県：第28次福岡農林水産統計年報
森林は福岡県：営林署業資料、地域森林計画書。昭和55年林業統計要覧
宅地は福岡県：昭和56年固定資産の概要調書
その他は総面積から農用地、森林及び宅地を控除したものである。

用 現 況

単位：ha・%

森 林	C	宅 地	D	そ の 他	E
	C/A		D/A		E/A
2,383	32.9	895	12.4	2,985	41.3
897	41.2	99	4.6	987	45.4
4,767	54.5	643	7.3	1,993	22.8
1,240	46.0	576	21.4	574	21.3
1,329	45.1	496	16.9	766	26.0
1,990	65.2	212	6.9	620	20.3
2,440	62.7	216	5.5	840	21.6
698	43.0	258	15.9	385	23.7
2,366	62.8	153	4.1	799	21.2
4,850	55.7	190	2.2	2,225	25.6
639	32.2	174	8.8	618	31.1
252	14.7	275	16.1	790	46.1
149	17.7	93	11.1	293	34.8
5,408	60.9	190	2.1	1,861	21.0
4,012	54.0	220	3.0	2,204	29.6
609	24.2	357	14.2	890	35.3
1,200	47.1	234	9.2	724	28.4
657	39.7	82	5.0	643	38.8
1,681	37.0	277	6.1	825	18.2
37,567	48.8	5,640	7.3	21,022	27.3

10月1日)

第 6 表

農業粗生産額及

項目 市町村名	合計 Ⓐ=B+C +D+E	耕 種 部 門				養 蚕 Ⓒ	畜	
		米	麦 類	その他	計 Ⓑ		牛	豚
飯塚市	2,678	807	16	298	1,121	—	387	107
山田市	1,128	92	2	72	166	2	152	39
筑紫野市	2,887	1,199	203	489	1,891	—	379	159
大野城市	487	163	1	173	337	—	25	6
太宰府市	534	281	12	132	425	—	22	26
宇美町	648	156	17	83	256	—	62	22
篠栗町	643	244	22	179	445	—	102	32
須恵町	688	213	27	84	324	—	213	95
久山町	1,424	275	34	174	483	—	166	149
若宮町	2,357	1,096	5	433	1,534	—	209	6
桂川町	1,143	459	0	190	649	—	156	40
稲築町	685	344	12	85	441	—	67	32
碓井町	669	269	1	116	386	—	281	2
嘉穂町	3,852	1,008	15	579	1,602	—	764	61
筑穂町	1,848	649	2	254	905	—	586	37
穂波町	1,933	584	4	456	1,044	—	70	70
庄内町	702	310	5	250	565	—	80	3
潁田町	787	222	7	47	276	—	58	67
夜須町	5,197	1,466	592	643	2,701	4	406	204
計	30,290	9,837	977	4,737	15,551	6	4,185	1,157
福岡県総計	256,906	80,302	11,739	95,408	187,449	62	20,945	10,964

資料：第28次「福岡農林水産統計年報」

※ 平均

び生産農業所得

単位：100万円・%

産 部 門			加 工 農産物 ⑤	生産農業	生産農業	生 産 性		
鶏	その他	計 ①		所 得 ⑥	所 得%	農家1戸 当り (千円)	耕地10a 当り (千円)	農業専従 者1人当り (千円)
				$\frac{F-G}{A}$	⑦			
1,053	8	1,555	2	27.0	722	595	74	672
767	2	960	-	20.3	229	942	119	966
455	-	993	3	37.3	1,076	667	80	813
119	-	150	-	39.6	193	470	63	854
61	-	109	-	41.2	220	426	62	694
308	-	392	-	29.9	194	516	84	870
64	-	198	-	44.6	287	572	72	886
56	-	364	-	38.7	266	626	94	1,137
626	-	941	-	24.2	345	740	77	1,078
603	5	823	-	38.7	912	724	63	823
295	3	494	-	35.1	401	707	72	851
144	-	243	1	36.2	248	595	63	685
-	-	283	-	46.6	312	709	102	1,065
1,422	2	2,249	1	35.7	1,376	1,072	97	1,083
314	3	940	3	40.4	746	971	75	1,060
746	2	888	1	34.6	669	908	101	884
53	-	136	1	44.9	315	865	81	959
384	2	511	-	24.9	196	653	72	966
1,878	-	2,488	4	32.9	1,709	1,468	97	1,238
9,348	27	14,717	16	672.8	8,707	※ 749	※ 82	※ 915
34,045	315	66,269	3,126	43.4	111,572	854	97	865

第7-1表

地 域

項目 市町村名	総 数	食 料 品	織 維 衣 料	木 材 等 木 製 品	パ ル プ 紙 加 工 品	出 版 印 刷
飯 塚 市	193	53	18	25	4	15
山 田 市	43	15	3	1	1	3
筑 紫 野 市	94	32	9	11	3	4
大 野 城 市	187	12	27	24	—	11
太 宰 府 市	44	17	9	5	—	2
宇 美 町	82	13	7	17	1	2
篠 栗 町	31	6	—	4	—	4
須 恵 町	109	9	—	15	5	7
久 山 町	27	2	1	5	1	—
若 宮 町	19	4	—	3	—	1
桂 川 町	24	6	3	3	—	—
稻 築 町	59	12	9	9	—	2
碓 井 町	12	2	—	1	—	2
嘉 穂 町	28	12	2	10	—	1
筑 穂 町	25	8	2	4	—	—
穂 波 町	75	31	5	8	3	3
庄 内 町	26	3	1	5	—	—
颯 田 町	21	3	3	2	—	1
夜 須 町	37	3	3	6	—	1
計	1,136	243	102	158	18	59
福岡県総計	15,263	2,941	1,056	3,382	278	1,171

資料：昭和55年「福岡県の工業」

の 工 業

単位：ヶ所・人・百万円

化学等	ゴム皮革	窯業土石	鉄鋼金属	機械器具	その他	従業者数 (人)	出荷類等 製造品 (百万円)
4	—	14	35	8	17	4,125	48,874
1	2	4	6	1	6	1,032	7,765
—	1	4	9	14	7	1,552	22,886
2	1	8	55	28	19	2,371	27,656
—	—	2	5	3	1	512	6,352
1	—	9	20	9	3	1,627	33,575
—	—	3	7	6	1	606	13,118
1	—	6	38	23	5	1,769	25,640
—	—	4	5	3	6	1,083	26,446
—	—	9	1	—	1	655	4,463
—	—	5	3	—	4	814	8,543
1	—	5	5	10	6	1,133	10,390
—	—	1	5	1	—	263	3,014
—	1	—	—	—	2	311	1,975
—	—	4	5	2	—	436	3,549
—	1	3	9	8	4	1,967	24,061
—	—	6	4	4	3	502	7,906
—	—	—	5	4	3	407	4,133
—	—	4	8	7	5	796	6,984
10	6	91	225	131	93	21,961	287,330
179	110	856	1,846	1,697	1,747	297,931	5,833,925

第7-2表 地域の商業

単位：ヶ所・人・百万円

市町村名	項目	商店数	従業者数	年間販売額
飯塚市		2,060	9,857	155,390
山田市		305	857	7,379
筑紫野市		734	3,394	54,531
大野城市		797	3,635	65,486
太宰府市		468	1,841	46,830
宇美町		260	821	7,419
篠栗町		179	x	x
須恵町		159	416	4,165
久山町		61	x	x
若宮町		123	323	3,581
桂川町		132	404	4,339
稲築町		345	942	7,576
碓井町		102	312	2,512
嘉穂町		156	502	7,338
筑穂町		125	331	2,811
穂波町		393	1,659	29,181
庄内町		88	513	12,099
颯田町		79	264	2,525
夜須町		114	x	x
計		6,680	26,071	413,162
福岡県総計		82,096	419,198	14,167,496

資料：昭和54年「福岡県の商業」

〔注〕飲食店を除く。

VI 開発の現状と構想

本図幅内の飯塚市を中心にかけて我が国石炭産出量の1/3を占めエネルギー供給の主役として全盛を誇っていたが、エネルギー革命により急速に衰退した。

従って、石炭に代る産業の導入による産炭地域の振興をはかるため産業基盤の整備に努めてきた。今後さらに産業基盤を促進し、みどり豊かな都市型工業基地づくりをはかるため、次の実施計画が樹立されている。

事業種類	事業名	事業主体	実施年度	事業の内容
交通ネットワークの整備	筑豊横断道路 国道200号 国道322号 県道筑紫野古賀線 県道飯塚大野線 稻城支差点 九州工業大学新学部 早期誘致 総合体育施設整備 スポーツ公園施設整備	国	56~	福岡市浜田~篠栗町 11,490m(全体)
		道路公団	56~	篠栗町~穂波町弁分13.430m(全体)
		国	57~	飯塚バイパス(穂波町弁分~庄内 6.2km)建設のための調査
		県	56~	筑穂工区(桂川町~筑穂町)山 家工区(夜須町~筑紫野市)冷 水道路(夜須町) 5,580m
		県	58	
		//	56~58	山田工区(山田市) 2,560m
		//	56~58	夜須町 古賀町 1,000m
		//	56~	宇美町 880m
		県	58	穂波町 690m
		//	57~58	志免町 143m
教育・文化機能	九州工業大学新学部 早期誘致	国	56~	創設準備調査
	総合体育施設整備	県	57	
	スポーツ公園施設整備	県	56	施設建設予定地の開発可能性調査
商業・流通機能	物流基地建設	県	57~	広域レクリエーションセンター
	ショッピングゾーン 拡充整備	//	58	筑豊緑地公園施設の整備
	物産流通の実態からみた適地調査	市	56	嘉穂高校跡地の開発整備
水資源 観光レクリエーション	嘉穂南部ダム建設	県	56~	物資流動の実態からみた適地調査
	八木山ふるさと自然 公園の整備	市	56~	嘉穂高校跡地の開発整備
	建設適地調査	県	58	建設適地調査
観光レクリエーション	八木山ふるさと自然 公園の整備	市	58~	サイト造園1ha 管理道路1,000m 用地取得30ha 花木植栽

事業種類	事業名	事業主体	実施年度	事業の内容
企業誘致	城山自然公園の整備	町	56～58	用地取得15ha ひろば整備4,000m
	男子雇用型機械工業・都市型工業導入	地域公団市町	56～	工業団地の造成、下益7.6ha 漆生20ha
農業の振興 教育・文化機能の整備	農業管理センター	団体	57～	管理センター建設
	王塚古墳の保存	町	57～	史跡、王塚古墳の墳丘整備、石室補修
農業の振興	県立養護学校整備 生産・流通管理施設	県	57～	調査
		団体	58	カンントリーエレベーター、ライスセンター建設
		市町	56～57	新農業構造改善事業（区画整理、多目的研修施設等）
		〃	56	農村地域定住促進対策事業（かんがい排水路、ふるさとセンター等）
		団体	57	農用地利用増進特別対策事業（は場整備等）
		〃	56	農業生産構造特別整備事業（農機具購入等）
		県市町	56～	は場整備 20地区
		県市町	57～	土地改良総合整備事業（農道整備、区画整理等）5地区
		〃	57～	排水対策事業（排水路、区画整理等）6地区
		〃	57～	農地防災事業、ため池整備、24地区、河川工作物 2地区
農業の振興	土地改良事業	〃	56～	かんがい排水対策事業 5地区 ダム 1地区
		〃	56～	農村基盤総合整備事業（は場整備等）
		〃	56～	農道整備事業 7地区
		県・市町	56～	湛水防除事業 1地区
		県	56	開拓地整備事業 1地区

各 論

I 地 形 分 類

筑豊の西南部地域（遠賀川流域）が本図幅の中・東部を占め、西側に福岡平野の東部と三郡山地、その周辺の丘陵が出現している。南西部には一部筑後川流域に属する山地・丘陵が見出される。

ほゞ東西に連なる古処・馬見山地（筑紫山系）の北面斜面と、山系から北に派生した三郡山地と戸谷・金国山地（図幅外）とが骨格となり、これらの山地に源を発して北流ないしは東流する遠賀川水系の各河川、三郡山地の西面から西流ないし北西流する多々良川、宇美川、御笠川水系の各河川、南流する宝満川（筑後川水系）に沿った低地、更にこれらの各河川間あるいは山地の山麓部に介在する台地；丘陵、低山地が主な地形要素となっている。

遠賀川は飯塚市街南部において、西南部を占める穂波川流域、東南部を占める嘉麻川（遠賀川）流域に2分され、他に北部には合流点を図幅外に持つ八木山川流域、東北部には庄内川流域が同じく遠賀川水系として分布している。

穂波川は古処・屏山山地の北側と三郡山地主峯群の東側斜面の水を集めて北々東流する河川で、その流域が本図幅の中央主要部分を占めている。

嘉麻川は本図幅外東南部の嘉麻峠付近に源を発し、図幅外東方の戸谷山地、金国山地の西側と馬見山地北側の水を集めて北々西流しているが、飯塚市内で穂波川を合流後は遠賀川本流として直方盆地へと北東流している。途中右岸で庄内川を合流している。

穂波川、嘉麻川、遠賀川中流部には数多くの支川が流入しているが、これらはいずれもかつての溺れ谷に堆積した三紀層の丘陵地（いずれも低起伏）を刻んで流下しており、山地以外では、河床勾配は緩く、夫々の河川沿いに帯状の谷底平野を発達させている。しかし、これらの谷底平野は決してスムーズには下流平野に連続してはおらず、度々、丘陵によって堰止されて、数段の盆地（目立った落差はない）地形を形成しているのが特色である。即ち、北東部に位置する飯塚盆地を中心にして、嘉麻（碓井）、山田、千手、桂川、穂波、鎮西地区に分布する谷底平野がいずれも独立した盆地地形を呈している。

三郡山地の西側に流域を持つ多々良川、宇美川流域等においても、上記の遠賀川と同様な様相が見られ、各支川沿いの谷底平野と盆地状の堰止地形が見出される。

各谷底平野の間には、広く三紀層の丘陵地が分布しており、また、かつての盆地内に堆積した礫層が段丘化した礫層低台地が、かなりの上流部付近まで分布しているのが特色である。

また、各谷底平野あるいは、それらが合流後に形成されている扇状平野には、形成の歴史が新しい扇状地段丘（低位）が広く分布している。

本図幅中に出現する地形を区分してみると、おおよそ次記のように整理される。

I 山地

I a 三郡山地

I a - 1 犬鳴山地

I a - 2 笠置山地

I a - 3 竜王山地

I a - 4 三郡山地

I a - 5 大根地山地

I b 四王寺山地

I c 古処・馬見山地

I c - 1 古処・馬見山地

I c - 2 嘉穂低山地

I d 金国山地

II 丘陵

II a 粕屋丘陵（台地）

II b 須恵・宇美丘陵（台地）

II c 板付丘陵

II d 太宰府丘陵（台地）

II e 飯塚西丘陵（台地）

II f 飯塚南丘陵（台地）

II g 飯塚東丘陵

II h 赤池丘陵

II i 山田丘陵

II j 千手・嘉麻丘陵

Ⅲ 台地

Ⅲa 篠栗台地

Ⅲb 須恵・宇美台地

Ⅲc 飯塚西台地

Ⅲa 飯塚南（桂川）台地

Ⅲb 千手台地

Ⅳ 低地

(1) 福岡平野東部

Ⅳa 粕屋平野

Ⅳa - 1 猪野川谷底平野

Ⅳa - 2 久原川谷底平野

Ⅳa - 3 多々良川谷底平野

Ⅳb 須恵・宇美谷底平野

Ⅳc 太宰府・二日市平野

Ⅳc - 1 太宰府・二日市平野

Ⅳc - 2 御笠川谷底平野

(2)Ⅳd 宝満川谷底平野

(3) 筑豊西南部平野

Ⅳe 飯塚盆地平野

Ⅳe - 1 飯塚盆地

Ⅳe - 2 鎮西谷底平野

Ⅳe - 3 内住川谷底平野

Ⅳe - 4 大分川谷底平野

Ⅳe - 5 穂波川谷底平野

Ⅳe - 6 桂川谷底平野

Ⅳf 嘉麻川谷底平野

Ⅳf - 1 嘉麻川谷底平野

Ⅳf - 2 千手川谷底平野

Ⅳf - 3 山田川谷底平野

I 山 地

I a 三郡山地

本図幅中の脊梁をなす山地で、東西に走る筑紫山系から北に派生した山地である。筑豊地区と福岡地区との分水をなす600mから900m程度の峯々によって構成されているが、地壘的なブロックによって数個の山塊に分離されている。

I a - 1 犬鳴山地

三郡山系の北半を占める山地である。本図幅中には鉾立山(663m)を主峯とする南部の部分が出現している。三郡変成岩と呼ばれる結晶片岩類と蛇紋岩によって構成されている。南東部に隣接する竜王山地との間には、八木山高原と呼ばれる盆地状の堆積面(200m内外)があり、周辺には小起伏山地が分布している。犬鳴山地と竜王、笠置山地との境界に沿って八木山川が流下している。

I a - 2 笠置山地

犬鳴山地の東側に位置する高度350m内外の小山塊である。

I a - 3 三郡山地

三郡山(936m)、宝満山(869m)を主峯とし南北に連なる山地であり、本図幅中では最も高起伏かつ急峻な花崗岩性山地である。シヨウケ越しを境として北に位置する若杉山(681m)は、三郡主峯群とはやや独立した変成岩山地(蛇紋岩)を形成し、多々良川を境にして北の犬鳴山地と相對峙している。若杉山の北面は、旧い地どり地形が拡く分布し、緩傾斜面を形成しているが、現在の滑動は休止している模様である。

I a - 4 竜王山地

三郡主峯の山塊の北東部、犬鳴山塊の南東部に位置する小山塊である。竜王山(616m)を主峯とし南東は比較的急峻であるが、北西面は緩傾斜を呈する変成岩山地である。

I a - 5 大根地山地

冷水峠を境いにして、三郡山地の南東部に位置する山塊である。大根地山(652m)を主峯とし、北半部は古生層、南半部は花崗岩によって構成された山地となっている。南部には高原状の小起伏面が遺存している。

I b 四王寺山地

三郡山地の西南部にあって、宇美川と御笠川によって分離独立された小山塊である。大城山(411m)を主峯とする起伏の小さい花崗岩山地で、馬蹄形状(北に開口)に分布している山頂群の周辺には、広い小起伏面(高原状)が遺存している。丘陵的な性格が強いところから四王寺丘陵とも呼ばれている。

I c 古処・馬見山地

I c-1 古処・馬見山地

古処山・屏山・馬見山等を主峯とする700mから800m台の花崗岩山地であり、本図幅中には、その北側斜面部が出現している。山頂付近、とくに北側には広い小起伏面が広がっており、高原状の様相を呈している。高原面の北側は急な開析斜面となって山麓へと移行している。

I c-2 嘉穂低山地

古処・馬見山地の北側山麓地(花崗岩)と残丘状に聳える古生層山地(300m台)によって構成された中～小起伏の山地である。一旦高度を減じた花崗岩山地が、古生層の残丘群によって堰止されているような形状を示している。北の飯塚盆地とは分離した、いくつかの小盆地地形を包含している。

I d 金国山地

本図幅外の東部に位置する金国山を主峯とする山地(古生層・石灰岩)で、図幅内の東北部にその一部が出現している。

II 台地

II a 粕屋丘陵(台地)

篠栗・久山地区、猪野川、久原川、多々良川の周辺に分布する三紀層の小起伏丘陵である。一部に洪積礫層の台地を介在させ、また、岩石段丘的な緩地形面を見る。旧炭鉱のボタ山が分布している。

II b 須恵・宇美丘陵

三郡山地の西方、須恵川・宇美川の周辺に分布する三紀層の小起伏丘陵である。洪積礫層と混在しボタ山が多い。

IIc 板付丘陵

四王寺山地の東北部に連なる丘陵で、本図幅中にはその一部が出現している。西南部はやゝ高い。

II d 太宰府丘陵（台地）

宝満・大根地山地の東部と四王寺山地の南～西麓に拓がる三紀層及び花崗岩性の丘陵である。点々と洪積礫層の台地を介在させている。最近、宅地造成に伴う人工改変地が多い。宝満山麓近接地では起伏がやゝ大きい。

IIe 飯塚西丘陵（台地）

笠置・竜王・三郡等の各山地の東方山麓から飯塚盆地にかけて拓がる三紀層の丘陵である。旧炭鉱のボタ山が点在する。丘陵間を刻む谷々は、飯塚平野への出口が堰止されたような逆扇形の形状を呈し、谷奥の丘陵面や中流斜面に洪積礫層の段丘面が点々と遺存している。一部に古生層を基岩とする高起伏丘陵が分布する。

II f 飯塚南丘陵

飯塚市の南方、穂波川中流（右岸）から遠賀川（嘉麻川）にかけて分布する第三紀層の丘陵である（西縁の一部に古生層の高起伏丘陵あり）。ボタ山の分布が広く、特に忠隈のボタ山は非常に高く、筑豊地帯の象徴的な姿で聳えている。この丘陵全般にわたって近年、工場団地の形成のために大規模な地形改変が行なわれている。

IIg 飯塚東丘陵（庄内丘陵）

飯塚市の東方、遠賀川と庄内川の間には拓がる第三紀層の丘陵である。ボタ山の分布が広い。近年、宅地造成、工業団地造成のため広範囲に地形改変が行なわれている。

IIh 赤池丘陵

本図幅の東北部に出現する、金国山地に連なる第三紀層の丘陵で、ゴルフ場、宅造に伴う改変が著しい。庄内川と彦山川の流域間に位置している。

II i 山田丘陵

飯塚東丘陵の東南部に連なるやゝ高起伏の第三紀層丘陵（一部に花崗岩）である。ボタ山の分布が広い。東北に傾動し、南西面は急峻であるが、東北面が緩い。

II j 千手・嘉麻丘陵

馬見山地の山麓から、谷を堰止するような形で分布する古生層低山（残丘状）までの間に拡がっている花崗岩性の丘陵である（一部に三紀層分布）。泉河内川の東から千手川を経て嘉麻川にかけて分布する。

III 台地

III a 篠栗台地

久原川の南岸（一部多々良川南岸）の丘陵傾面に沿って帯状に分布する洪積段丘面である。

III b 須恵・宇美台地

三郡山地の西麓、須恵川、宇美川沿いに分布する洪積層の礫層台地である。いずれも丘陵と混在しているが、宇美川中流右岸と須恵川左岸間、及び宇美川左岸の山麓近接部にかなりまとまった礫層台地面を形成している。

III c 飯塚西台地

前記の飯塚西丘陵間に混在する洪積礫層の台地である。飯塚市街地の西方に近接した個所や、大分川の流域にかなりまとまった拡がりを見せている。

III d 飯塚南（桂川）台地

飯塚南丘陵と嘉穂低山地との間、桂川付近に分布する洪積礫層の台地である。三紀層の残丘や岩石段丘が混在している。

III e 千手台地

馬見山地山麓と嘉穂低山地、千手・嘉穂丘陵にかこまれた盆地状地に分布する洪積礫層の台地である。

IV 低地

(1) 福岡平野東部低地

IV a 粕屋谷底平野

福岡市の東部、多々良川（IV a—3）、久原川（IV a—2）、猪野川（IV a—1）沿いに扇状堆積した谷底平野である。水系に従い西ないしは西南方向に帯状に分布する。

IVb 須恵・宇美谷底平野

福岡市の東南部、板付丘陵・四王寺山地と三郡山麓との間の丘陵・台地を刻んで、須恵川、宇美川が北西流しているが、これらの河川及び支川沿いに帯状の谷底平野が分布している。

IVc 二日市・太宰府平地

福岡平野と県南の筑後平野との境界には、明瞭な分水山地がなく、沖積平野のまま漸移地帯に位置する平野で、現流域としては福岡平野に属している。

宝満山の西面に発した御笠川は、大きく四王寺山地を迂回しているが、四王寺山地と太宰府丘陵との間に谷底平野（IVc-2）を形成している。

(2) 筑後平野北部

IVd 宝満川谷底平野

宝満山の南面に発して南流する宝満川（筑後川水系）に沿って形成された谷底平野である。筑後平野の北部に属する。

(3) 筑豊西南部平野

IVe 飯塚（盆地）平野

飯塚市街地と付近の遠賀川・穂波川沿いに形成された扇状地平野（IVe-1）と、これに注ぐ支川沿いの谷底平野群である。各谷底平野は夫々の谷口が堰止されたような形状（逆扇形）をとり、夫々が盆地的な性格を持っているものが多い。鎮西地区の谷底平野（IVe-2）、内住川谷底平野（IVe-3）、大分川（IVe-4）、穂波川谷底平野（IVe-5）、桂川地区谷底平野（IVe-6）が、これに属する。各平野には扇状地堆積物が段丘化した低い礫層段丘が見出される。

IVf 嘉麻川谷底平野

嘉麻川は山田川を合流すると山田丘陵と飯塚南丘陵によって狭さくされ、その直上流部である碓井町付近で盆地状の広い扇状平野を形成している。嘉麻川中流部や千手川、山田川には河川沿いに谷底平野が形成され、盆地状平野に連なっている。嘉麻谷底平野、千手川谷底平野、山田川谷底平野に3区分した。各平野とも、扇状地段丘（低位）の分布が広い。

V その他

(1) 土石流段丘

山間の溪床(大略10床以上)に堆積する古い土石流堆積面、あるいは谷口の土石流扇状地面が段丘化した台地状の地形である。洪積礫層ほど旧くはないが、段丘比高はかなり大きなものが多い。

三郡山系、古処・馬見山系内に多く見出される。

(2) 土石流堆積面

山間の溪床面あるいは谷口を覆う土石流堆積(扇状堆積)面である。堆積の歴史が新しく段丘的な性状を示さないものを対象とした。

(3) ボタ山

本図幅の三紀層の丘陵地帯には、かつて炭鉱の分布が広く、各所に掘搾にともなって地上に掘出された炭滓物(ボタ)が堆積され、人工的な小山を形成している。これをボタ山と呼んでいる。現在、ボタの再利用によってボタ山の数が少なくなっているが、なお多数の分布を見ることが出来る。ボタ山にはピラミッド型のもので台地状のものがあるが、特に前者には秀麗な姿を示すものが多く、筑豊風物の象徴と考えられている。

(九州大学 竹下敬司)

参考文献

経済企画庁：20万分の1地形分類図「福岡県」昭和45年

尾留川正平：青野寿郎編：日本地誌19 福岡県、1979

二宮書店